

進路だより

令和7年3月24日発行

桜が丘特別支援学校 進路指導部

No. 4

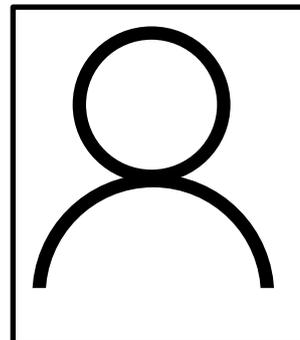


進路だより第4号を発行します。今回も、卒業生の生活を紹介します。

今回の卒業生は、

「〇〇 〇〇さん」です。

生徒会長を務められた〇〇さん、卒業されて1年が経ちました。お話を伺いました。



1 現在、通われている大学を教えてください。

→ 長崎国際大学 人間社会学部 国際観光学科 です。

2 主な勉強の内容を教えてください。

→ 観光の歴史やその成り立ち、国家試験へ向けた対策科目などの専門科目はもちろん、全学科共通科目である英語や茶道を学んでいます。

3 現在の学校生活について教えてください。

→ 現在は、講義のある期間は集中して講義を受け、長期休暇の期間にアルバイトなどをして過ごしています。友人も少しずつできてきました。ときどき、図書室の本を借りて読むなどしています。

4 進路先を決めるとき、大切にされたことは何ですか？

→ 自分がやりたいことがあって、それに向かって学ぶことができるかどうかを大切にしました。

5 休日の過ごし方（趣味など）

→ 家でゆっくりする日が多いですが、時折カメラを持って出かけています。夏休みには、自分で働いたお金で、北陸まで行ってきました。

6 高校生活との違い

→ 自由が利く分、自分でなんでも決めて、取り組むことが求められることが大きな違いです。また、法的にも「大人」なので、必ず自分の行動に責任を取らなければならないことも違いです。

7 桜が丘で学んでよかったこと

→ 自分が何者なのか、何が得意で苦手なのかを話し合っ、そのなかで課題をみつけていく、その一連のプロセスを学ぶことができてよかったです。

8 もっとやっておけばよかったこと

→ 苦手な教科の勉強は、もっと取り組むべきでした。また、読書をしておくべきだったと痛感しています。今になって本が好きになってきました。

9 後輩にひとこと！

→ 大学は自由です。自由だからこそ「向学心」が必要です。何を学びたいのか、何をを目指すのかを、大学卒業後の道まで、少しでいいので描きながら、大学探しや受験勉強に取り組んでください。合格はゴールではありません。そこからがスタートです。みなさんが、新しい学びの扉を開くことを、心に深く知覚しながら、毎日歩いていくことを願っています。

今年度の高等部進路状況について

障害福祉サービスの利用 (6名)	自立訓練	ゆたかカレッジ長崎	大村市 杭出津
	就労移行支援	ブリス	長崎市 目覚町
	就労継続支援B型	ピコティ	西海市 西彼町中山郷
	//	ことぶき	波佐見町 村木郷
	//	ライフ波佐見	波佐見町 湯無田郷
	//	あいあい	佐世保市 陣の内町
就職 (4名)	障害者雇用 (週20時間以上 30時間未満)	ふよう長崎佐世保出張所 (ホテル客室清掃員)	(勤務場所) 佐世保市 ハウステンボス町
	障害者雇用 (週20時間以上 30時間未満)	小さな家 (介護)	大村市 富の原
	障害者雇用 (週20時間以上 30時間未満)	ディーソールHPI (健康診断の事務業務スタッフ)	佐世保市 崎岡町
	障害者雇用 (正社員)	双葉産業株式会社 (縫製)	佐世保市 小佐々町

令和6年度卒業生

今年度の高等部3年生の進路状況について説明をします。

障害福祉サービスの利用を選択した生徒は、前期(6月)、後期(11月)の職場実習、特別実習で進路先になった事業所で実習を行いました。障害福祉サービスの利用するに当たって、事業所によって活動内容や雰囲気異なります。自分に合った事業所を選ぶためにも、保護者の皆様には、お子様と一緒に福祉サービス事業所の見学を長期休業中に行い、実習先の選定の参考にさせていただきたいと考えます。現在、高等部を卒業してすぐに就労継続支援B型を利用するには、事前に就労移行支援事業所で就労アセスメントが必要ですが、障害福祉サービスの制度が変更されるようなので、新しい情報が入りましたらお知らせします。

就職を選択した生徒は、実習で業務を遂行できる能力を見ていただき、内定につなげることができました。履歴書の作成、面接練習に取り組み、書き直しや練習を重ねて、本番に臨みました。また、働き続けるための支援を受けるため就業・生活支援センターへの登録を行い、定期的に連絡を取っていただくことになりました。

「進路のしおり(高等部版)」を高等部の生徒、保護者にはお配りしております。また、毎年7月に全保護者を対象に高等部卒業後の進路についての説明会を実施しております。資料などを見られて、気になることがあれば、遠慮なく御相談ください。

【小・中学部用】

総合的な学習の時間「進路学習 卒業へ向けて」

中学部3年生は12月から2月にかけて高等部入試に向けての進路学習に取り組みました。入学願書を記入したり、本番を見据えて筆記試験や面接の練習に取り組んだりしました。

今年度から本番の入試が2月に早まったことで、例年よりも早く練習を始めるようにしたことで、不安を抱える生徒が多かったように感じましたが、目標に向かって少しずつ練習を重ねることができました。中には面接にプレッシャーを感じており、練習を始めたときは緊張で答えられない生徒もいましたが、地道に練習を続け、反省したことを次の練習に生かしていくことで少しずつ自信を高め、落ち着いて取り組めるようになりました。本番では、どの生徒も練習したことを生かし、見事にやり通すことができました。入試が終わってからは、みんなほっとした表情で、達成感を感じているようでした。

その一人一人の達成感が4月からの原動力につながることを期待しています。

(文責：中学部 安永 雅)